入試日程

最新情報は、

「東北芸術工科大学 受験生サイト https://www.tuad.ac.jp/adm/」をご覧ください。

よくある質問

Q. コミュニティデザイン学科入学に必要な能力は何ですか？

「意思」「コミュニケーション能力」「論理的思考力」の3つです。コミュニケーション能力と論理的思考力は入学後も鍛えていきますが、やはり地域を、社会を良くしていきたいという気持ちがなくては続きません。一緒に地域を面白くしてくれる仲間を求めています！

Q. コミュニケーション能力はどれだけ必要ですか？

人が好き、人と話すことに苦手意識がないことが前提です。本学科では、様々なコミュニケーション手段を用いて、人の気持ちに働きかける高度な技術を学びます。プレゼンテーションの上手さだけではなく、きちんと自分の意見を伝えることができ、相手の言いたいことを理解できることが大切です。

Q. 総合型選抜入学試験［専願体験型］はどんな試験ですか？

地域の課題を解決するアイデアを生み出す模擬ワークショップを行います。評価のポイントは、自分の意見が言えているか、チームメンバーの意見を聞けるか、そして、協働してアイデアを創出できるか。アイデアの質だけではなく、どう取り組めていたかを重視しています。面接では、高校時代に行ってきた活動を中心に、リーダーシップや課題解決への取り組みをお聞きします。

Q. 地元に戻るかどうか決めていません。入学できますか？

もちろんできます。教員は、全国各地の地域づくりを仕事にするコミュニティデザイナーです。必ずしも自分の出身地を仕事場にしなくても大丈夫です。大学で学ぶ中で、第2、第3のふるさとといえる地域ができるかもしれません。

Q. 他大学の地域デザイン学科やコミュニティデザイン学科と何が違うんですか？

他大学の地域系の学部学科との大きな違いは、実践で地域に住む方々とともに課題解決を行なっていくことです。課題解決のアイデアを提案しても、誰がやるのか、どう継続していくのかという問題が付いて回ります。アイデアづくりと、それを担う人づくりの2つを同時に行う方法を学ぶのが、私たちのコミュニティデザインです。

Q. 理系ですが、やっていけますか？

コミュニティデザイン学科は理文芸融合のユニークな学科です。旧来の学問領域に縛られず、都市計画、経営学、心理学、教育学、福祉などの知識を活かしながら、「デザイン思考」を用いて、課題解決していきます。理系選択をしていた人でも、デザインできるようになります。

Q. 絵を描くのが苦手ですが、やっていけますか？

大丈夫です。今までパソコンでデザインしたことのない人でも、チラシや冊子のデザインができるようになります。絵の上手い下手ではなく、何を伝えたいのか、どうしたら伝わるのかをしっかり考えることが大切です。

Q. 習得可能な資格にある「社会教育士」とは何ですか？

2020年度より社会教育主事任用資格が、「社会教育士」という名称に変更され、取得に必要なカリキュラムが変わりました。社会教育士は、地域の様々な課題を解決していくべく、地域の人たちに学びの場の提供や人材育成を行う役割を担う人です。コミュニティデザイン学科では、数科目の追加履修を行えば、社会教育士の資格を取得できます。

お問い合わせ

東北芸術工科大学
〒990-9530 山形県山形市上桜田3-4-5
Tel:0120-27-8160　Fax:0120-57-2154　http://www.tuad.ac.jp/

大学公式ウェブサイト
http://www.tuad.ac.jp/communitydesign/

学科運営公式ウェブサイト
https://tuadcommunitydesign.wixsite.com/community

学科公式フェイスブック
https://www.facebook.com/community.tuad/

学科公式ツイッター
https://twitter.com/tuad_community

学科公式ユーチューブチャンネル
https://www.youtube.com/channel/UC1t3YSsjiSIA17ponOt5TKA/videos

コミュニティデザイン学科

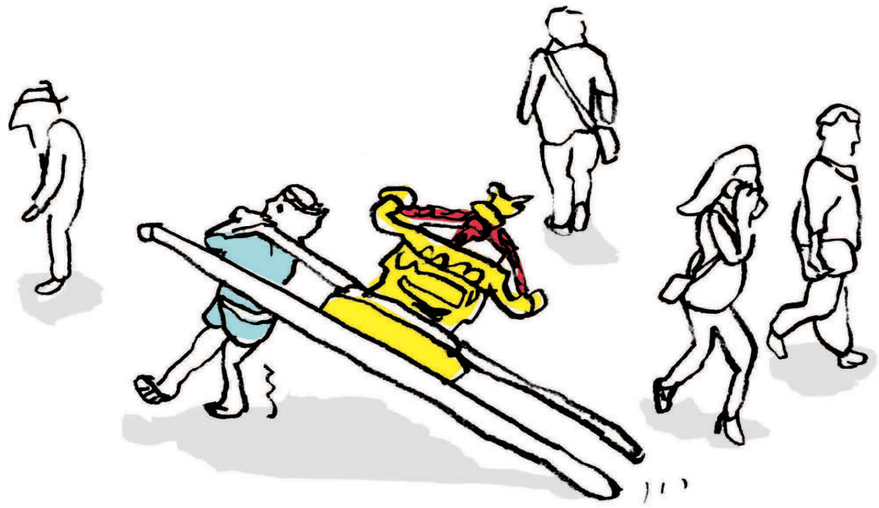
東北芸術工科大学

災害が起きた時、近所に知り合いがいなかったら……
何百年続いてきた祭りが人手不足で途絶えてしまったら……
生まれ育った場所が過疎化により消えてしまったら……

これらは、すでに日本各地で起きていること。

地域の数だけ問題や課題があり、解決方法があります。
そして、解決するのは地域の人々です。

変えることは、とても労力のかかること。
変わることは、とても勇気がいること。
しかし、ほんの少しのきっかけが、大きな力になる可能性があります。



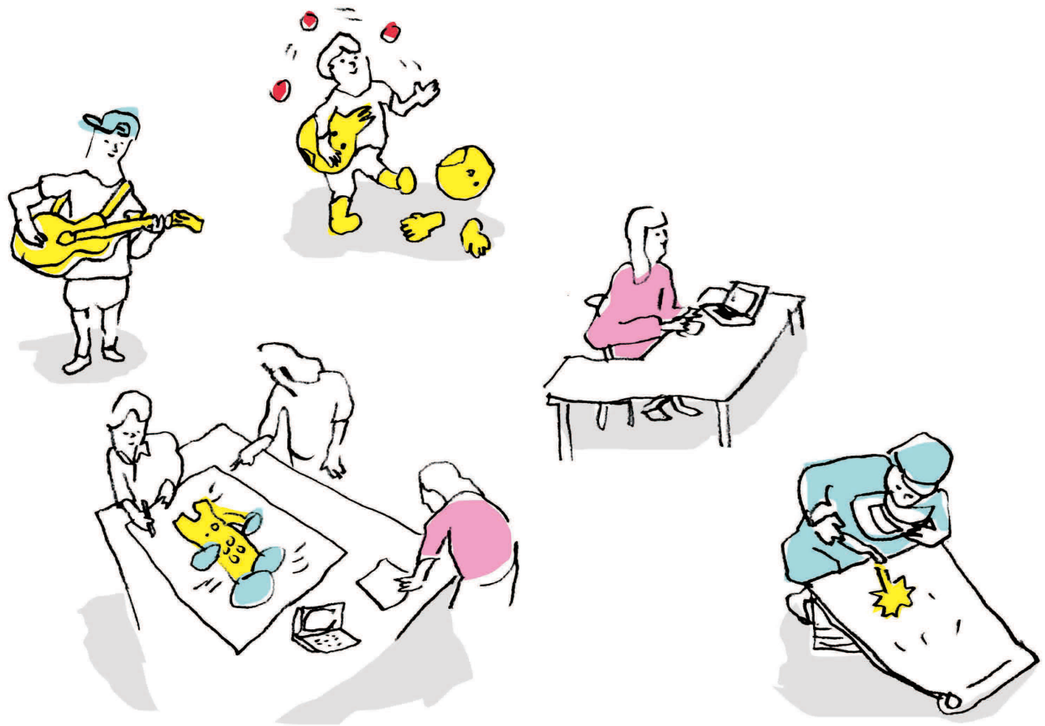
そんなきっかけをつくる人材がコミュニティデザイナー。
未だ東日本大震災の傷が癒えぬ東北、日本の未来に必要な人材なのです。

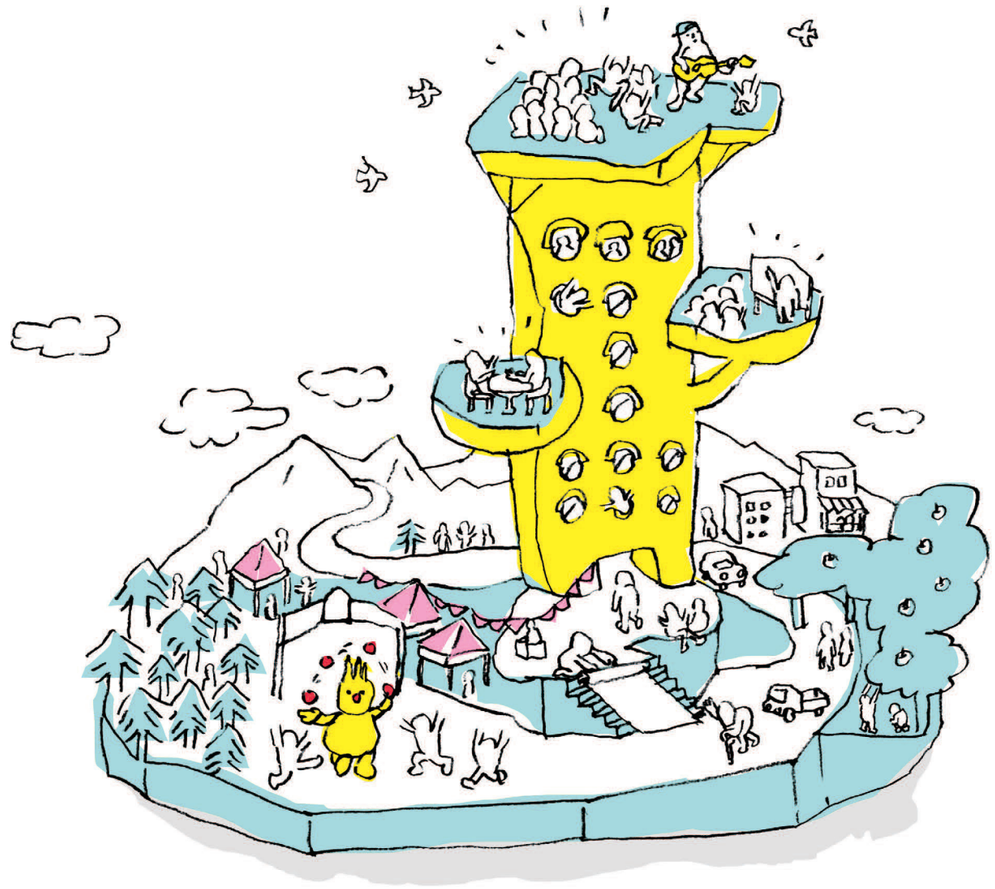
例えば地域の方の想いを引き出すワークショップの企画や、
生まれたアイデアを形にするサポートなど、
その地域に合ったやり方を見出し、
地域の人たちの手で解決していけるよう導いていきます。

人のつながりやプロセスなど、
目に見えない「コト」をデザインしていくコミュニティデザインですが、
チラシや空間、商品など
目に見える「モノ」のデザインも重要だと思っています。

美しく、可愛く、気持ちの良いモノは、人の気持ちを動かす力があります。

だからこそ、ここ芸術とデザインの大学に
コミュニティデザイン学科が創設されました。





地域を守り、豊かなまちを作ることが使命の公務員はもちろん、
お金を地域社会の発展のために循環させる銀行員、
美しい風景や街をつくる都市計画コンサルタント……

地域の仕事は地域が元気だからこそ成立する。
まちが豊かになることは、どの職業にとっても共通の課題なのです。

だからこそ地域を俯瞰して見ることができ、
本質的な課題を発見し解決に導くコミュニティデザイナーの力が
社会に強く求められています。

スタジオ

コミュニティデザイン学科の最も特徴的な授業は、スタジオです。2年前期から3年前期の1年半、教員と一緒に地域に入って活動する実践的な授業です。テーマは中心市街地や過疎地、被災地など様々ですが、どのスタジオでも学生自身がプログラムを考え、地域の方々とともに課題解決の道を探っていきます。2年生と3年生が合同でプロジェクトを進めるのも学びのひとつ。チームで活動する力やリーダーシップを育みます。

事例① 商店街 × コミュニティデザイン

活動場所：山形県大江町

IMAGE

中心市街地にある銀行跡地の利活用で商店街を活性化したい

ACTION

まちづくり交流会で出た住民のアイデアでまちを舞台に社会実験！

1.大江町みんなでまちづくり交流会を開催

重要文化的景観として保存されている旧きらやか銀行の利活用を目的とし、まずは基礎調査を住民に報告。住民がまちの現状を理解した上で、DIY、cafe&bar、仕事観光移住、イベントのチームに分かれ、具体的な利活用のアイデアを考える交流会を行いました。

2.旧銀行跡地駐車場でマルシェを企画

商店街のにぎわいを取り戻し、店内に気軽に入れる仕組みとしてDIYチームが各商店の軒先に屋台を設置するアイデアを提案。屋台を作りました。このアイデアが発展し、旧銀行跡地駐車場を使ったマルシェ「左市（あてらいち）」が住民主体で開催されることになりました。

人と活動がパワーアップする循環

旧きらやか銀行が「こんな場所になったらいいな」というアイデアを出し合い、住民のみなさんと一緒にそのアイデアを実現するお手伝いをしています。ハードの設計は、建築家に想いを伝えカタチに。ソフトである活動は、オープンしてすぐに住民自身が行えるように、2年間かけて社会実験を重ねています。自分で出したアイデアを自ら実践することは、まちの課題を「自分ごと」として捉える上で、とても重要なことなのだと実感しています。
スタジオ活動を始めたばかりの頃は、このまちで自分に果たせることが何かわからず困っていました。しかし、できることからやればやっただけ、地域の方が活き活きしていく姿を目の当たりにし、人と活動がパワーアップする循環を作る力がコミュニティデザインにあるということに気づきました。今では私もこのまちが大好きになり、しばらく行かないと寂しくなるほどです。これからも求められる限り、まちや人と関わる活動を続けていきたいと思っています。
（平田和佳｜香川県立丸亀高校出身）

〈地域の人の声〉

学生が関わっていることでこのまちの未来をより感じることができました。いろんな地域で学んでいる彼らは、町外のことはもちろん県外の動向を教えてくれ、考えるきっかけを与えてくれます。年が近いこともあって遊びのような感覚で一緒に勉強できることが楽しいです。（二戸勝也さん）

事例② 公民館 × コミュニティデザイン

活動場所：山形県山形市

丸山スタジオ

IMAGE

やまがた藝術学舎を地域に開かれた場所として活用したい

ACTION

「つまむ（つどう・まなぶ・むすぶ）」場をつくり、山形を元気に！

1.活動のコンセプトを考える

やまがた藝術学舎（旧県知事公舎）を地域に開かれた拠点として利活用することを目指し、使い方を考えるワークショップを開催。参加者と学生がアイデアを出し合い、「つまむでやまがたを元気にする」という活動コンセプトが決定しました。

2.市民が主体となりイベントを実施

山形の暮らしの豊かさを体感できるイベント「つまむのま」を参加者と企画し、山形ビエンナーレの開催に合わせて実現。その後も暮らしを豊かにする知恵や考え方を話し合う「つまむ広場」を開催するなど、利活用の試みが続いています。

参加者が積極的に変化したことが驚き

この活動は、やまがた藝術学舎を地域に開かれた場所へ変えていきたいという想いから始まりました。まずは活動を始めてみよう！ということで参加者を募集。活動コンセプトの検討から始まり、出てきたアイデアを少しずつ実現しています。

イメージは「新しい公民館」。これまでの閉鎖的なイメージから、アートやデザインに気軽に触れ合える場所への変換を目指し、参加者のみなさんと共にアイデアを生み出してきました。

驚いたのは、活動していく中で、まちづくりに興味のなかった参加者の方が、回を重ねるごとに積極的になり、最近ではトークイベントを企画するまでに変化したことです。一生懸命伝えれば、想いが通じるということを体感でき、コミュニティデザインのやりがいと自信につながりました。

コミュニティデザイナーは地域住民のサポーターという役割ではありますが、同じ目線で自分ごととして関わることが大切。社会に出ても縁の下の力持ちとして、誰かを喜ばせたり、ワクワクさせていくことを大切に活動していきたいです。

（齊藤美咲｜栃木県立宇都宮中央女子高校出身）

〈地域の人の声〉

学生のパワーに引っ張られて、いつの間にか活動にのめり込んでいました。学生が僕たちの声を丁寧に聞いてくれるので信頼関係も築けています。1人でできないことをみんなの力を合わせて形にする。みんなが同じ方向を向いて成し遂げる様子はまさに「部活動」そのものです。（大石智巳さん）

事例③ 中山間地域 × コミュニティデザイン

活動場所：山形県金山町中田地域

醍醐スタジオ

IMAGE

過疎化が進む中山間地域のビジョンを住民と共に作り上げる

ACTION

まずは行動！ 明日からできることから楽しく始める

1.なかだみらい会議を開催

中田地域の現状とビジョン、そこに向けてのプロセス共有した上で活動テーマを決め、住民同士で4つのユニットを結成。明日からできることから行動するために、アイデアを「ホップ・ステップ・ジャンプ」の3段階に分け、無理なく実現を目指します。

2.なかだ文化祭で活動発表

生活文化、しごとづくり、交流拠点、発信の4つのユニットごとに中田地域の住民に向けて発表しました。活動を知ってもらうだけでなく、未来のビジョンや行動することの楽しさと必要性を来場者全員と共有することができました。

一歩一歩が新しいエネルギーに

山形県金山町にある中田地域は、現状では目立った観光資源も特産品もない中山間地域です。人口減少、若者の流出などの問題も含め、日本の中山間地域は中田地域のような場所がほとんどでしょう。

しかし、本当に何もない場所はどこにもありません。一番大切なのは人財、住民の皆さんです。中田地域のみなさん一人一人に個性があり、魅力的。中田地域の未来を作る上で重要な存在なのです。

そんな住民のみなさんと、中田地域のいまと未来を考え、地域のビジョンを全員で共有するための活動を行っています。行動することは誰にとっても勇気がいることです。なかだみらい会議では、楽しく気軽に活動できるように、明日からできることから行動していくことを大切に活動してきました。一つが達成されると自信をもって次に進むことができます。

その行動の一つとして「なかだ文化祭」を住民の方々と企画し、なかだみらい会議の活動発表を行いました。メンバーを含め、50名以上もの方が足を運んでくださり、新しいエネルギーが生まれてきているのを感じました。行動の一歩一歩が中田地域の未来につながっていくと信じています。

（渡辺佳奈｜山形県立山形北高校出身）

〈地域の人の声〉

0を1にする「瞬発力」が醍醐スタジオのメンバーにはあります。彼らはコミュニティ（地域社会）をフィールドにして「持続力」も習得しようとしている。現場でしか学べない多くの「力」を身に付けた逸材がここにはゴロゴロいて、僕は彼らの将来にワクワクしています。（栗田伸一さん）

地域留学

コミュニティデザイン学科では、1ヶ月間の地域留学が必修になっています。どこに行くかは自分次第。アポイントメントから宿泊場所の手配まですべて自分で行います。地域で働くとはどういうことか、その面白さと厳しさを、実体験を通して学んでいきます。

山形県大江町

●大江町役場

その先にいる町の人を想像して

ふるさと納税の内容検討や、空き家調査、資料作成等、様々な業務を体験させていただきました。ふるさと納税の業務では、返礼品アイデアを提案。どんなに小さな仕事でも、その先に町の人がいること、誠意を持って取り組むことの大切さを学びました。
（村山夏渚｜山形県立山形北高校出身）

山形県寒河江市

●Strobelight

トータルディレクションの必要性

写真・映像製作事務所で人物、商品撮影など基本的なものから、地域情報発信媒体の取材・撮影・編集などを学びました。地方においての情報産業は都心のように分業制ではなく、カメラマンであってもディレクターの能力が求められ、コミュニティデザインの力を生かせる仕事だと感じました。
（布施果歩｜山形県立山形北高校出身）

高知県四万十市

●よって西土佐 道の駅

地域の力が集まる魅力的な場所

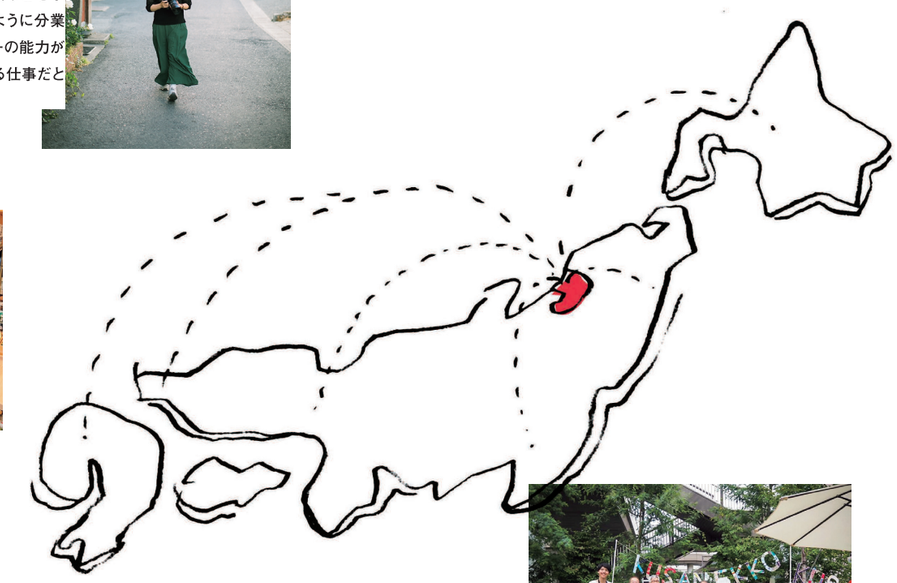
道の駅でのお手伝いや、周辺地域に住む方へのヒアリング、イベントでの写真撮影を行いました。道の駅には、農家さんやレストランを営む人など、様々な方が商品を出しており、地域の方々の力が集まって四万十らしい場所が生まれることを間近で体感できました。
（柴田雄輝｜茨城県立緑岡高校出身）

山口県阿武町

●阿武町役場

地域と共に生きるとは何か

阿武町役場を拠点とし、ホームステイでまちの暮らしを感じながら、ワクワクすることを見つけプロジェクトを考えました。プロジェクトづくりは、町の課題解決はもちろんですが、「好きだからやりたい！」という強い想いが大事なのだと感じました。
（平田和佳｜香川県立丸亀高校出身）



兵庫県神戸市

●NPO法人プラス・アーツ

アイデアを実現させる仕組みを学ぶ

アートの考え方を用いた防災教育プログラムの仕組みづくり、地域コミュニティ形成のイベント運営、冊子の編集・デザインなど幅広く関わることができました。継続する・組み合わせる・地域資源を活かす大切さと、実現させる仕組みを体験から学びました。
（遠藤百笑｜福島県立郡山東高校出身）

山形県天童市

●株式会社モンテディオ山形

チームメンバーはスタッフ全員

広報部の業務で、選手やコーチに同行し小学校を訪問。内容報告やレポートを作成し、HPに掲載していただきました。スタッフもチームの一員であるという意識で、各部署が協力し目標に向かっている姿に感銘を受けました。
（東海林史明｜日本大学山形高校出身）

大阪府吹田市

●studio-L大阪事務所

プロの仕事を間近で体感

第一線で活躍するコミュニティデザイナーの業務サポートを行いました。市民活動の支援やパークマネジメントなどの現場にも関わらせていただきました。プロのストイックさと何事も楽しむ姿勢がまちの人の活動に良い影響を与えているのが印象的でした。
（大村康平｜聖和学園高校出身）

秋田県秋田市

●株式会社See Visions

モノのデザインに必要なコトのデザイン

地元のデザイン事務所にインターンしました。トークイベントの企画運営を中心に、デザイナーさんの業務を見学。クライアントさんとのやり取りの中で、目に見えるモノをデザインする現場でもコミュニティデザイン学科で学んでいる「話す・聞く」などのコトのデザインスキルも必要だと知りました。
（菅原葵｜秋田公立美術大学附属高等学院出身）

岩手県紫波町

●廣田酒造店

実践で役立てられたデザインの力

廣田酒造店が制作会社にウェブサイトの製作を依頼するためのサポートをしました。掲載したい酒造りの想いやこだわりを聞き、写真を選び、サイトのラフデザインを作成。今までデザインの技術に自信がありませんでしたが、実践で役立てられることを実感できました。
（小野詩織｜山形県立天童高校出身）

岩手県花巻市

●社会福祉法人悠和会銀河の里

互いを知り、自分らしく生きる

就労支援の現場でスタッフの方や銀河の里を利用している方と共に農作業をしたり、商品のパッケージデザインを行いました。誰かにとっては普通の場所でも、他の誰かにとっては生きづらい場所かもしれない。お互いを深く知ることが、自分らしく生きる一歩になるのだと気づきました。
（渡部真由｜山形県立米沢東高校出身）

宮城県石巻市

●公益社団法人MORIUMIUS

誠実に向き合うスタッフの姿に感銘

自然との共存や地域について学ぶ子ども向けプログラムや、大学・企業研修の実施をサポートしました。学科での学びが社会で働く基盤になることを実感するとともに、スタッフの子どもや地域に対して誠実に向き合う姿勢から多くのことを学びました。
（高橋沙希｜岩手県立水沢高校出身）

商品開発論

3年次に行う商品開発論は、単に商品のパッケージを考えるだけではありません。商品の製造過程からユーザーに渡るまで、お金の流れとともに、地域課題をどのように解決できるかをデザインします。どれだけ地域に寄り添って考えられるかがポイントです！

二井宿の名言を集めよう！
パッケージづくりも観光ツアーに

あいかわら漬け

人口1000人弱の山形県高畠町二井宿地区は山に囲まれ、お店も少なく交通の便も悪い。でもこの地には魅力的な人々の変わらない幸せな日常がありました。その魅力を、地域の野菜がたっぷりの「あいかわら漬け」とともに詰め込んで、一人暮らしを始めた若者や第二の故郷を求めている方にお届けします。瓶には、二井宿の人のあいかわらずな名言（迷言）が書かれたタグが付いており、読む人をほっこりさせます。また、あいかわらずなタグを作るツアーも企画。参加者は二井宿の日常の幸せに触れながら第二の故郷を作ることができます。
（高橋沙希｜岩手県立水沢高校出身）

ナイショのふるさとから
あなただけに贈り物

Baccha-veg

山形県金山町中田地域は、知名度が低く目立った特産品もありません。おばあちゃんたちも足腰が悪く、なかなか外に出られません。しかし、見方を変えれば全て中田の魅力。特産品はないけど家庭菜園をしていたり、地元の人しか知らない美しい景色、話し上手でおもてなしが大好きなおばあちゃんたちがいます。都会のショップで中田の美しい風景写真入りのメッセージカードを購入し、日常の悩みや相談事など自由に書いて投函すると、おばあちゃんからのお返事と、家庭菜園のおすそわけ野菜が届く仕組みを考えました。
（田口真緒｜秋田県立角館高校出身）

雪国のおばあちゃんが贈る
あったかミトン

Spring gift Mitten

山形県金山町中田地域は人の集まる機会や、地域間交流が少なく、地域の魅力に地元の方が気づいていないという課題があります。地域の方が集まって作業ができ、自然豊かな中田の魅力を再確認できる商品として、中田地域で採れるぜんまいの綿を糸に紡いで編む子ども用のミトンを考えました。ぜんまいは英語で「Spring」。春に採れることから「春の贈り物」とかけて名付けました。ぜんまいの花言葉は「子孫繁栄」。撥水性、保湿性に優れているので雪に触れてもあったか。子どもを様々なことから守ってくれるミトンです。
（富樫萌｜山形県立東桜学館高校出身）

山の恵みの美味しさを通して
山の未来を考える

山の便

きのこは山の恵みの象徴的な存在で、環境の循環において“分解”という重要な役割を担います。しかし、林業の衰退が原因で山は荒れており、循環が止まってしまう恐れがあります。山形県大江町も山に囲まれた自然豊かな土地。都会の消費者にも山の現状に気づいてもらうきっかけとして、この商品を企画しました。若い女性に手に取ってもらいやすくするため、簡単に美味しく調理ができるヒラタケのオリーブオイル漬けを考えました。売上の一部を大江町の山を管理している団体に寄付することで環境の循環を目指します。
（佐々木祥太｜名古屋市立名東高校出身）

課外活動

学んだことを即実践に移せる課外活動は、学生にとって重要な学びの場。スタジオ活動は長期的なものですが、課外活動は短期的なプロジェクトがほとんど。現場で出来ること・出来ないことを把握し、授業に戻って確認する。その繰り返しが学生の成長につながります。

SCHシンポジウム

SCHとはSuper Community Highschoolの略。この活動は、高校生の地域参画と、高校・行政・民間のネットワーク形成を目的に行われています。
地方の高校生の都会への流出は大きな地域課題です。また、部活や勉強が忙しく、地域行事に参加する高校生も少ないため、進学や就職先に「地元」という選択肢が減少しています。
地方創生が叫ばれる今日に必要なのは主体的に学び、課題発見・解決ができる人材。このシンポジウムでは高校生が地域の中で実践を通して学んでいくアイデアを、高校・行政・民間の三者が協働して生み出すワークショップを行います。また、ここで生まれたアイデアを各地で実践する動きも出てきています。
司会やプログラム作り、全国の事例の抽出、グラフィックレコーディングなど、すべてコミュニティデザイン学科の学生が行い、教育変革の場を生み出しています。

高校生の地域参画をみんなで考える

コミュニティデザイン体験をプロデュース

サマーアイデアキャンプ

高校生向けに毎年2泊3日で地域課題解決の体験合宿を行っています。実際に地域の人に話を聞いて魅力や課題を見つけ、チームに分かれて解決策のアイデアを考えます。
各チームに大学生が2人ついてサポート。高校生に近い存在だからこそ、気持ちを理解しながら鼓舞することができ、アイデアの可能性が広がります。また、寝食を共しながら課題に取り組むことで、短期間でもプロセスを踏めばチームになれることを体感します。
そして、このイベントもすべてコミュニティデザイン学科の学生が運営。コーディネートはもちろん、資金集めのための助成金の申請、開催地との交渉、事前フィールドワークなども学生が行います。「どうしたらやる気になるのか」から「食事の材料はどのくらい用意すべきか」まで、スタートからフィニッシュまで実践できる重要な学びの場になっています。

探究型学習のためのスキルを伝授

高校生向け ファシリテーション研修

探究型学習を取り入れたい高校に向けて、コミュニケーションの基本とアイデア発想や課題解決型のワークショップの手法を教授しています。高校生にとって少し上のお兄さん、お姉さんから教わることで、共感しながら楽しく学べると好評です。学生もまた、学んだことを教えるという行為を通じて、より深く再現可能なスキルとして身に付けられます。

祭りから田植えまで！ 地域の至る所に学生が出没

地域の祭のサポート

大江町の道海という集落で年に2回行われるお祭りのお手伝いや、天童市田麦野地区の酒米の田植えと稲刈り、山形市の中心街にある公園でキャンドルイベントのサポート……。他にも県内外のお祭りやイベントにコミュニティデザイン学科の学生が頻繁に出没します。先輩から後輩へ引き継ぎながらも、最終的に地元の方が自立して行っていけるようサポートを心がけています。
1年生から関わることで地域の豊かさを感じる重要な場。地域の方と触れ合いながら地方の豊かな食文化や生活文化を楽しみながら理解していきます。

行政計画策定のお手伝い

行政計画、中でも総合計画と呼ばれる計画は、行政の中の最高位に位置する重要な計画です。住民の意見を多く取り入れ、計画策定後も住民と行政協働でまちづくりを進めていくためにも、住民参加型ワークショップが多く開かれています。こうしたワークショップにファシリテーターとして参加。話し合いがスムーズに楽しく進められるようにお手伝いしています。

リアルな現場で、スキルを磨く。緊張が成長の原動力！

戻り鮭プロジェクト

コミュニティデザイン学科では、ふるさとで活躍したい人材を預かり、地域づくりのスキルをしっかり身につけさせて地元に戻す「戻り鮭プロジェクト」を実施しています。地方で必要な新しい仕事を生み出す起業家マインドを養い、自身の進路をデザインできる人材を育成しています。

直帰型

気仙沼を元気にしたい。やりたいことを実現できるまちへ

小野寺真希さん（1期生）
コミュニティデザイナー｜宮城県気仙沼高校出身

高校時代に「底上げyouth」という団体で、まちづくりの活動をしていました。当時の私はまちづくりにはお堅いイメージがあったのですが、実際に仲間と観光パンフレットを作ったり活動をしているとすごく楽しかった。そこで、まちづくりを学べる学科としてコミュニティデザイン学科が創設されると聞き、AO入試で受験しました。
3年の後期から就職について考えるようになり、気仙沼に戻って働きたい気持ちが強くなった時に、地域おこし協力隊の募集を見つけ応募しました。所属先は、気仙沼まち大学運営協議会。市の事業で市民の学びや実践の場づくりを行っていました。協力隊の任期を終えた現在も引き続き、スクエアシップという会員制シェアスペースの運営に関わりながら、卒業と同時に仲間と起業したコミュニティデザイン会社「moyai」と個人でやっているグラフィックデザイン会社「荒屋デザイン」の3足のわらじで働いています。

●高校時代
「底上げyouth」で
まちづくり活動に参加

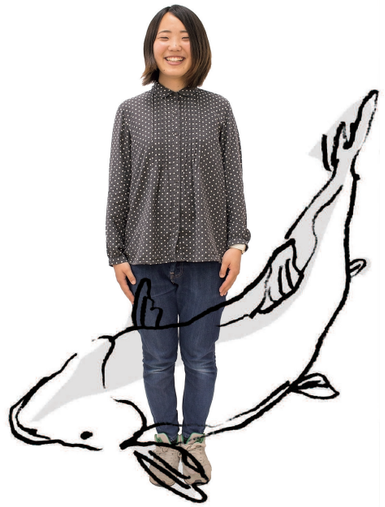
●受験
AO入試で合格

●大学1~3年
SCHシンポジウムや
サマーアイデアキャンプに携わる

●大学4年
地域おこし協力隊就任

●現在
コミュニティデザイン会社「moyai」
と個人事業「荒屋デザイン」を起業

憧れの地域おこし協力隊から、母校のキャリア支援の仕事へ



渡辺紀子さん（1期生）
かえる舎｜山梨県立富士北陵高校出身

高校生の頃に出会った地域おこし協力隊に憧れて、私もいつか地元に恩返しがしたいと思うようになり、コミュニティデザイン学科への入学を決めました。企業への就職も考えましたが、高校時代にお世話になった協力隊の方から声がかかり、大学に在籍しながら、協力隊として地元に戻ることに。任期を終えた今はそのまま、協力隊の方が立ち上げた「かえる舎」という会社に入社しました。卒業研究では、母校の同窓会を活用した、高校生と卒業生をつなぐキャリア教育のあり方を研究。高校生は少し上の先輩から仕事のことを学び、卒業生は高校生に語ることで自らの人生を見つめ直すと同時に、自分も役に立てるという自信につなげていくことを目的にしています。
大学で学んだことは、活きすぎていて怖いくらい、すべて活きています（笑）。大変なこともありますが、学科で鍛えられた逆境を乗り越える精神力がとても役に立っています。

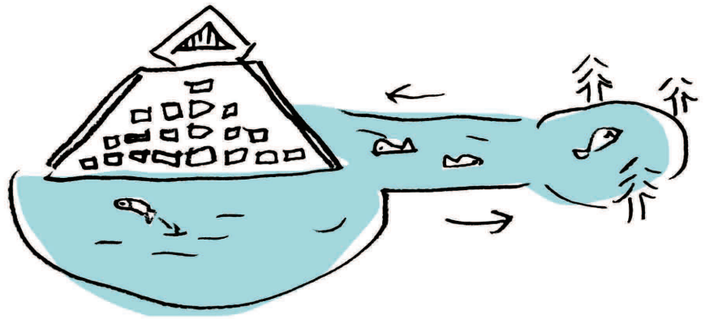
●高校時代
全国高等学校デザイン選手権
最優秀賞

●受験
デザイン選手権特別枠で入学

●大学1~3年
デザイン選手権の学生スタッフの
リーダーとして活躍

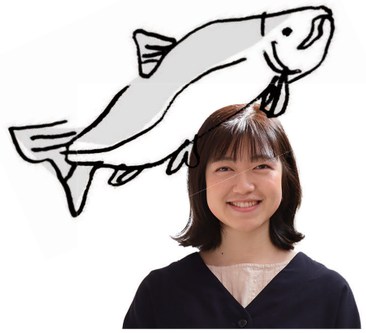
●大学4年
地域おこし協力隊就任

●現在
かえる舎入社
母校のキャリア教育支援に携わる



回遊型

教育は地域づくりの要！将来は山形の教育に携わりたい



佐藤緑さん（1期生）
認定NPO法人カタリバ｜山形県立山形中央高校出身

SCHシンポジウムやサマーアイデアキャンプの活動を経験し、若者流出や過疎化が進む地域において高校生の地域参画が重要だと気づき、教育に興味を持ちました。高校時代は、部活に明け暮れ、地域のことは何も知らずに過ごしていましたが、大学に入学すると、こんな世界があったのかと驚くばかり。高校生の時期から地域に目を向け、大人と対話する時間が大切なのではないかと思うようになりました。そこで選んだ就職先は、認定NPO法人カタリバ。高校生のマイプロジェクトや探究型学習、キャリア支援、被災した子どもたちへの学びの支援を行っています。社会人1年目は、岩手県大槌町で、小中高生の放課後の居場所づくりと学習支援を。3年目からは、島根県雲南市で地域教育コーディネーターとして働いています。しっかり修行した後はふるさとである山形に戻って、山形の高校生がもっと地域で活動し、自分の人生と地域の未来を考えられる機会をつくりたいと思っています。

●高校時代
吹奏楽部の活動に没頭

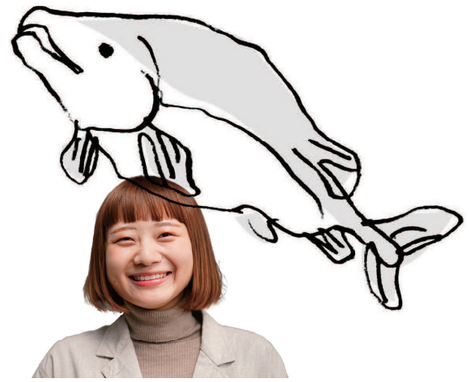
●受験
一般入試後期で合格

●大学1~3年
教育の島で有名な大崎上島町に
インターン、SCHシンポジウムな
ど高校生の地域参画活動に参加

●大学4年
認定NPO法人カタリバに就職。
大槌臨学舎勤務

●現在
島根県雲南市にて
地域教育コーディネーターに従事

最期まで自分らしくいられる老後をつくりたい



渡部真由さん（2期生）
株式会社あおいけあ｜山形県立米沢東高校出身

私が働く「あおいけあ」は、カフェがあったり、近所の人たちが遊びにきたり、今までの介護の常識を覆すような開放的な介護施設です。夜勤は利用者さんの食事や排泄の介助、日勤では、送り迎えに加えて、利用者さんの行うプログラムを利用者さんと一緒に考えています。裁縫が得意だと聞けば、小物をつくって、地域向けに行うイベントで販売したり。介護は暗いイメージがありますが、私はすごい楽しい！介護に興味を持ったのは、祖父の死がきっかけでした。多趣味で友人の多かった祖父が、入院を機に祖父らしさを失っていく姿を見て、介護が必要になってもその人がやりたいことができる場所が必要なんじゃないかと思ったからです。家族からは反対されましたが、パソコンを使ってプレゼンして説得しました（笑）。
「ここで働くのは5年」と決めて将来はふるさとに帰ろうと思っています。そして、最期までじぶんらしくいられる老後を、みんなでデザインしたいと思っています。

●高校時代
剣道部の練習に明け暮れる毎日

●受験
AO入試で合格

●大学時代
高畠町二井宿地区で小中学生の
居場所「おちゃこ屋」を創設
介護・福祉デザインスクールに参加

●現在
神奈川県藤沢市にある
「あおいけあ」で高齢者介護に従事

※卒業生のインタビュー動画は、学科公式youtubeチャンネルをご覧ください！

コミュニティデザインを活かせる職業

どんな職業においても、前例のない課題を解決できる自立した人材が求められています。コミュニティデザイン学科では、地域の現場で実践的な課題解決を経験し、常に挑戦できる人間力を身につけられるようカリキュラムが組まれています。その力はあらゆる職業で活かすことができます。

サービスデザイン・UXデザイン

企業や行政などの複雑化し、効率が悪くなっている仕組みをときほぐしながら、よりよいサービス提供ができるようにする新しいデザイン領域です。人の行動や気持ちを予測しながら、目に見えないガイドラインを設計します。

#デザイン会社　#ウェブ制作会社　#IT企業

公務員

安定した職業というイメージですが、前例踏襲だけの公務員の時代は終わりました。少子高齢化に伴う税収の減少、社会保障費の増大という時代の荒波の中で求められる公務員像も変化しています。コミュニティデザインを学んだ新しいタイプの公務員が全国の自治体から求められています。

#市町村役場 #県庁

情報・広告・デザイン

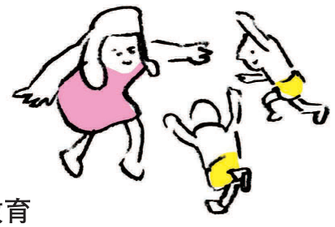
地域にとって情報発信は、地域の価値を高め、観光客の誘客や地場産品の販売促進、さらには移住者を増やすなど地域になくてはならないものです。情報をトータルでディレクションし、地方ならではの情報発信ができる人材が求められています。

#地方情報誌 #ローカルメディア #映像制作会社
#デザイン・ウェブ制作会社 #印刷会社

コミュニティデザイナー

行政と住民の間に立ちながら、まちづくりを支援するコミュニティデザイナーが、地域で求められています。デザイン思考を使って人を惹きつけるデザインやアイデアを出せる人材は芸術系大学にあるこの学科ならでは。第一線で活躍する教授陣から学べることも魅力です。

#コミュニティデザイン事務所 #まちづくりコンサルタント
#市民活動支援センター #地域おこし協力隊



教育

地域の人たちをやる気にさせ、アイデア創発や実践スキルが身につくコミュニティデザインは教育の分野でも活かせます。総合的な探究の時間や自然学校、放課後教育などで子どもたちの主体性を育み、生きる力を伸ばす教育が求められる現場に欠かせない存在になるはずです。

#地域教育コーディネーター #社会教育 #生涯学習
#教育旅行 #学習塾

福祉・医療

今までの福祉や医療は、専門家しかできない世界と考えられていたかもしれません。しかし、少子高齢化社会では、専門家だけではなく、地域ぐるみで支援を必要としている人を支える仕組みが必要になっています。地域とケアの現場をつなぎ、どんな人でもどんな状況になっても人間らしく幸せに暮らすために、コミュニティデザイナーができることがあります。

#老人福祉施設 #児童福祉施設 #障害者福祉施設
#医療法人

建築・都市計画

図書館や公民館を建てたり公園などを計画する際、重視されるのが住民の意見です。いかに住民の声を設計に生かし、住民に愛される建物や空間にするかが重要な課題になります。住民の意見を整理し設計者に伝える。まさにコミュニティデザイナーの力が役立つ分野です。

#建築設計事務所 #都市計画コンサルタント
#リノベーション会社

人材開発・組織開発・就労支援

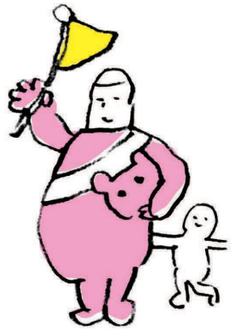
企業の中のコミュニティデザインとも言われる分野です。イノベーションを起こしたい、人材育成をしたい、働き方改革を進めたいなど、企業の悩みを社員一人ひとりの力をアップさせたり、人間関係をよくすることで解決していきます。

#インナーブランディング　#人材コンサルタント
#就労支援

サービス

ブライダルや住宅販売など、お客様のニーズに合わせた商品提案が求められるサービス業にも、コミュニティデザイン学科で学んだスキルが活かされます。地域づくりに直接関わらなくても、この学科で身につけたスキルは、社会人基礎力として、どの業界でも必要とされているものばかりです。

#冠婚葬祭 #接客・販売 #飲食



商業・観光

地域づくりにおいて地場の特産物を使った商品開発や観光は、外貨を獲得するためにも重要です。単に商品やツアーを企画するだけでなく、その企画で地域課題を解決できるかが求められています。芸術系大学だからこそ養われるアイデア力や魅力的なモノを生み出す力が活かされます。

#観光協会 #商工会議所 #観光会社 #鉄道会社
#航空会社 #地場産業企業 #旅館・ホテル

金融

地方銀行は地域の中小企業を資金面からサポートしたり、起業や賑わい創出を後押しするなど、金融を通してコミュニティデザイナーと同様の役割を担っています。地元企業の繁栄なくしては、存続しえない地銀だからこそ、地域活性化は大命題。新しい地銀をつくっていける人材が求められています。

#地方銀行 #都市銀行 #信用金庫 #保険会社

スポーツ・健康

平均寿命が100歳まで伸びると言われている昨今、日々の健康づくりは生き延びるための必須条件になっています。スポーツは体だけの健康維持ではなく、仲間づくりや生きがいなど精神面での健康づくりにも有効。すべての人に健康で、つながりのある人生を提供するためにコミュニティデザイナーの能力が必要とされています。

#総合スポーツセンター#スポーツジム
#スポーツ用品メーカー #健康産業企業